

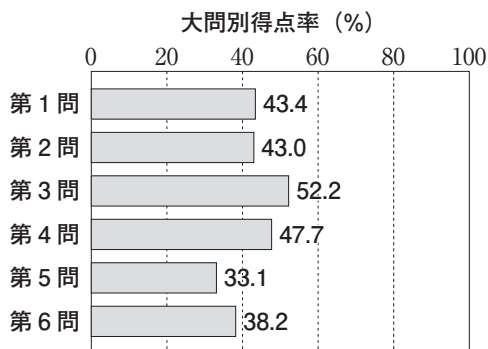
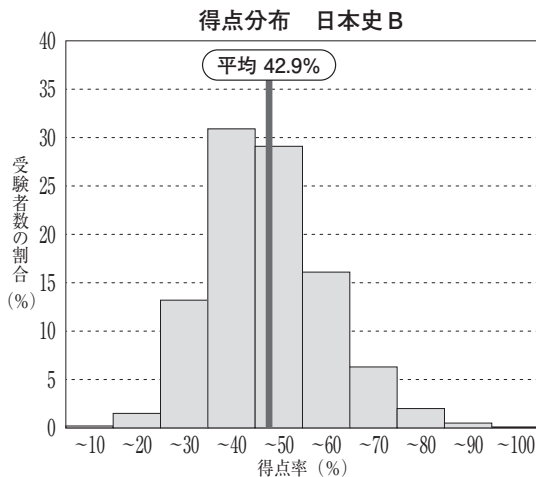
# 日本史B

## 出題傾向を把握し、計画性をもって学習にあたろう！

### I. 全体講評

2018年度センター試験本番レベル模試がいよいよ幕を開けた。東進の本模試は、センター本試・日本史Bに完全準拠した最良の模擬試験である。毎回受験することで傾向をつかみ、実力養成に大いに役立ててほしい。

第1回2月センター試験本番レベル模試の得点率は、42.9%と5割には届かなかった。全体的に受験者の解答が分散する傾向が顕著で、解答の選択に迷う受験者の様子が垣間見えた。大問別にみると第3問の中世史が52.2%と唯一5割を越えたほかは、3割台から4割台の数字に終わった。近現代史や文化史などの分野でとくに失点するケースが多く、はやめ



に対策を講じる必要があることが明白となった。出題傾向に関して過去問研究を通じて把握しつつ、「何をいつまでやる」といった綿密な学習計画を立てていこう。

### II. 大問別分析

#### 第1問 貨幣に関する会話

テーマ史は古代から現代まで、「縦」の流れを意識し、各時代の相違点を分析しよう！

会話文形式で貨幣の歴史を取り上げた。センター本試・日本史Bでは例年、古代から現代までの長期に及ぶ時代のテーマ史が出題される。時代をまたぐ俯瞰的視野をもち各時代の相違点を分析してみよう。

第1問の得点率は43.4%と4割前半にとどまった。貨幣に関する視覚教材を使用した問1や、空欄補充形式をとった問4はそれぞれ60.1%、60.3%と6割を突破できた。しかし、問5・問6のように時代が近現代史に及ぶと22.1%、26.1%と2割台に落ち込んだ。近現代史は出題のボリュームゾーンであるだけに、先を見据えた学習計画をたてよう。

#### 第2問 古代の文字文化

歴史に対する正確な知識を習得して、迷わず解答を選択できるように集中しよう！

古代の文字文化をテーマとして出題した。漢字は渡来人によってもたらされ、やがて日本独特のかな文字が創出された。「文字」文化は政治・外交など主要テーマとも密接に関連していることを意識して学習にあたっていこう。

第2問の得点率は43.0%と、第1問と同じ水準であった。問2の渡来人に関する時代整序問題は62.7%としっかり対応できていた。一方、古代文学史を出題した問5、古代外交を主題とした問6はともに正答より誤答を選択した受験者が上回った。知識に不明確な点はないかどうか、解答解説を熟読することで隅々まで点検しよう。

**第3問 中世の京都**

史料読解はセンター試験・日本史 B では定番の形式なので、過去問にしっかり目を通そう！

中世の京都をテーマとして鎌倉・室町時代の社会経済・政治・文化を幅広く出題した。社会経済史は暗記作業に偏りがちだが、社会経済の発達が武家社会に与えた影響を考察することで深く理解することを心がけよう。

第3問の得点率は52.2%と大問6題中、最も高い数字であった。問1は8割を越える正答率を確保できていた。史料読解を主題とした問3のような形式はセンター試験・日本史 B でも頻出であるが、37.8%と失点した受験者が目立ったようだ。過去問に目を通すことで出題傾向を把握し、対策を講じていくことが大切である。

**第4問 近世の政治・社会**

正誤の判断材料となる箇所は文中のどこにあるのかを研究しよう！

近世の法や訴訟などを取り上げ、政治・社会を中心に出题した。多くの割合を占める文章選択問題を得点源とするためには、どのような箇所を正誤の判断材料とするのかを見抜く力を養っていこう。

第4問の得点率は47.7%と5割には届かなかったが、享保の改革に関する政治史を主題とした問2は72.2%、鉾山や産地の正しい場所を選択させた問6は53.9%としっかり対応できていた。問3の儒教に関する出題では、34.2%と一転苦しんだようだ。近世文化は理解すべき事柄が膨大にある。あとまわしにせず、早めの対策を講じて時間をかけてじっくり学習にあたろう。

**第5問 岩倉使節団**

ケアレスミスをなくすことで、基本的な問題は必ず得点していこう！

岩倉使節団をテーマに、明治期の基本的な理解度を確認する問題とした。設問文の読み間違いなどのケアレスミスによる失点は避け、着実に得点を重ねていこう。

第5問の得点率は33.1%と大問6題中、最低の数字に終わった。未習箇所が多かったことが響いたと考えられ、正答率が5割に届いた問題は皆無であった。問3の幕末に締結された条約や、問4の明治期の日朝関係に関する設問は頻出事項であった

が、それぞれ30.9%、22.5%と伸び悩んだ。ともに誤答を選択する受験者のほうが多い結果に終わった。

**第6問 東京駅と近現代の日本**

身近な施設から歴史を考えるなど、さまざまな角度から歴史を眺めていこう！

センター本試・日本史 B (第6問) では特定の人物や施設が取り上げられる傾向がある。普段から身近な施設や歴史的遺物などを通じて、さまざまな角度から歴史を眺めていく習慣をつけよう。

第6問の得点率は38.2%と第5問と同様に3割台にとどまった。図版から社会状況を判断させた問3の63.5%と、「立憲政友会」に関する時代整序問題であった問5の14.4%の数字を比較してみても、全体的に、正答率の幅が広く安定していない状態を感じ取ることができる。どこの時代も得点できるといった網羅性を強化することが重要だ。

**Ⅲ. 学習アドバイス****◆出題傾向をつかむ**

まず、何よりも「センター本試・日本史 B」の出題傾向をつかむことが大切である。過去問を研究すれば、歴史的な出来事の内容に関する正誤の判定が大部分を占めていることがわかる。選択肢文のどこの箇所が正誤の判断材料となっているのか、しっかり分析してみよう。

**◆センター試験本番レベル模試を活用する**

東進のセンター試験本番レベル模試を毎回受験しよう。出題傾向を容易につかめるメリットがあるほか、解答解説には合格点を確保するための知識がまっている。模試受験後に解答解説を熟読することで、解答選択に迷走することのないしっかりとした知識が必ず身につくはずである。

— 天才とは努力する凡才のことである。 —

アインシュタイン